

決戦現代文生徒用問題 第2講・第3講

西洋近代における一つの^①カッキテキな新しい出来事として、数学に基づく自然科学的方法による自然世界の発見と並んで、風景としての自然の発見と風景感情の覚醒、ということがありました。

A 日本

かどうか、と言いますと、幕末の開港——明治維新の変革と共に、西洋近代文化、特に近代のいろいろな精神文化の流入が開始するに及んで、これを文化受容していく過程で、日本においても全く新たに風景の発見、風景感情の覚醒が生起することになったのです。具体的に言いますと西洋近代の精神文化の^②イサン^③であります文学・詩・西洋画（特に風景画）・建築・博物学・地理学・山岳登山・民衆芸術・思想（哲学）、更にそれら一切の文化の精神的基礎の一つであるプロテスタントイイズムなどの日本への流入があつて、これらを受容する過程で初めて、自由な個人の覚醒、自然の美の世界への心的覚醒が日本人に生じ、これによって日本人は初めて、風景の発見・風景感情の覚醒へと導かれたのでした。

西洋近代の物質的文明の方面については、経済や自然科学の技術や制度など、すべての方面において、日本人は全面的に急速にそれらを受容して自分のものとなし、物的・経済的・制度的方面において、いわゆる近代化を達成したのです。この点で日本人は極めて優秀な国民であることを証明したのでした。ところがこれに対して、西洋近代の諸々の精神文化については、その本質的な部分にまで深く入って、それを理解したり受容したりするという次元になると、一般的な傾向として、ここではスレチガイになるか、拒否されるか、そうした反応が^④グリ返し起こるのです。なぜこういうことが起こるのか、ということについては、このような現象につきましては、

B 戦前の日本（仙台）に教授として数年（一九三六～四一年）滞在

したことのあるレーヴィットの次のような鋭い日本人観察の言葉が、そのまま的中していると思うのです。
 《大概の日本人の西洋に対する関係において聞き逃されたい、言外の響きは、ヨーロッパに対する拒絶である》。日本人は、《あらゆる領域で今やふたたび己れ自身になろうと欲する》。それは《今日の日本人の国粹主義的な願望》の現れなのであり、《日本の自己愛》の現れなのである、と。またこれもレーヴィットは言っています。ギリシア人は、《自分の中から自由に歩みでること》ができた国民であつて、まさにこのことによつて、その根が異国のものであつた一つの世界を己れの故郷とすることができた、と。

ところで、日本人の物質主義的・現実主義的傾向によつて西洋近代の物質文明と進歩信仰の一面的・情熱的摂取がなされたのに対して、西洋の精神文化の受容となると国粹主義的アレルギーの反応が起こる、という点を考えると、それだけに一層驚かされること、また感動深くあることは、^⑤明治時代の日本人の一部の人たちが初めて体験する西洋近代の精神文化の流入に直面した時、新鮮に驚き、自己を空しくして学びとらうと努力したことがあるという事実です。そしてそのことの成果として、精神文化の各方面においては、近

代の自然科学的・自然的発見とは異なるいま一つの自然的発見、自然における美の世界の発見、すなわち自然風景の発見に、導かれたということです。

本主義的反動の層の厚い流れの中で、その流れに抗しながら生じたのでした。ですからそのことは文化史的、思想的に極めて意義深き出来事だったと言えるでしょう。

(注) レーヴィット(一八九七～一九七三)——ドイツの哲学者。十九世紀以降のドイツ思想を研究。ナチスに追

われて来日。

問一 傍線①、②、③のカタカナを漢字に改めよ。

問二

A

}

C

 に入れるのに、最も適当と思われるものを、それぞれ次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 つねだ | 2 あるいは | 3 かつて | 4 なぜなら | 5 だから |
| 6 どこまで | 7 しかも | 8 いよいよ | 9 ところが | 10 むしろ |

問三 傍線ア「これを…なったのです」とあるが、その時日本の知識人はどのような態度で臨んだか。それを具体的に述べている部分を、本文中からそのまま抜き出して、二十字以上、二十五字以内で書け。

問四 傍線イの「言外の響き」とはどういうことか。最も適当と思われるものを、次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- 1 ことばのなかに深い教知をこめること
- 2 ことばに頼るよりも心を重んじること
- 3 ことばで意志表示をせず沈黙を守ること
- 4 はつきりと言わないが、それとなく知らせること
- 5 ことばを無視して態度であらわすこと

問五 傍線ウの「《その根が…できた》とは、どういうことを言おうとしたものか。最も適当と思われるものを、次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- 1 自己顯示
- 2 自己同化
- 3 自己疎外
- 4 自己本位
- 5 自己撞着

問六 傍線エで「明治時代の…直面した時」とあるが、なぜここでは「日本人の一部の人たち」と限定しているのか。その理由として、最も適当と思われるものを、次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- 1 一般の日本人は西洋の物質文化の摂取にのみ熱心で西洋の精神文化の受容には関心がなかったから
- 2 一般の日本人は西洋の精神文化の受容の経験がなく、その文化の受容が個人否定になると考えたから
- 3 一般の日本人は西洋の物質文化の摂取に努めたが、西洋の精神文化にはアレルギーを起こしたから
- 4 一般の日本人は西洋の物質文化を求めたが、西洋の精神文化の受容では自国の文化に満足したから
- 5 一般の日本人は保守的傾向が強く、西洋の物質文化・精神文化のどちらをも拒否したから

問七 次の文章は、筆者が本文に続けて述べたものである。「小島鳥水」、「田部重治」とあるのは、いずれも高名な山岳登山家であった。D、Eに入れるのに、最も適当と思われることばを、右の本文中からそのまま抜き出して、それぞれ漢字二文字で書け。

国木田独歩にしても、徳富蘆花にしても、また小島鳥水にしても田部重治にしても、明治という時代の知識人が、自然に対していかに若々しく初々しい心をもって立ち向かっていくことができたか、そしてまた西洋から流入してくる D のもう一つの流れ、すなわち詩や文学や絵画（風景画）や学問・思想やキリスト教に対して、いかに自由で感動深くそれらを受容することのできる自由な魂を持っていたか、を私たちは感じないわけにはいきません。田部重治は、自分の山岳への心の変革が、山登りだけの影響ではない、と言っております。田部がこのように風景感情の E にまで導かれた、ということのためには、彼自身述べていますように、ロッセッティ、ブラウニング、テニソン、キーツ、パイロン、ワーズワスなどイギリスの詩人たちのその点における影響は大きかったです。

問八 本文の表題として、最も適当と思われるものを、次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- 1 明治維新の変革
- 2 西洋の文化と日本の文化
- 3 近代における日本人の特質
- 4 日本における近代化の達成
- 5 日本における自然風景の発見

問九 問七の文章にある徳富蘆花の作品を、次のなかから選び、その番号をマークせよ。

- 1 道草
- 2 自然と人生
- 3 破戒
- 4 人間失格
- 5 羅生門
- 6 雁

決戦現代文 第2講

西洋近代における一つの①カッキテキな

新しい出来事として、数学に基づく自然科学的方法による自然世界の発見と並んで、風景としての自然の発見と風景感情の覚醒、ということがあります。A日本はどうか、と言いますと、幕末の開港——明治維新の变革と共に、西洋近代文化、特に近代のいろいろな精神文化の流入が開始するに及んで、これを文化受容していく過程で、日本においても全く新たに風景の発見、風景感情の覚醒が生起することになったのです。

具体的に言いますと西洋近代の精神文化の

②イサンであります文学・詩・西洋画（特に風景画）・建築・博物学・地理学・山岳登山・民衆芸術・思想（哲学）、更にそれら一切の文化の精神的基礎の一つであるプロテスタントイイズムなどの日本への流入があつて、これらを受容する過程で初めて、自由な個人の覚醒、自然の美の世界への心的覚醒が日本人に生じ、これによって日本人は初めて、風景の発見・風景感情の覚醒へと導かれたのでした。

西洋近代の物質的文明の方面については、経済や自然科学の技術や制度など、すべての方面において、日本人は全面的に急速にそれらを摂取して自分のものとなし、物的・経済的・制度的方面において、いわゆる近代化を達成したのです。この点で日本人は極めて優秀な国民であることを証明したのでした。ところがこれに対して、西洋近代の諸々の精神文化については、その本質的な部分にまで深く入って、それを理解したり受容したりするという次元になると、一般的な傾向として、そこではスレチガイになるか、拒否されるか、そうした反応が③ク|り返し起こるのです。

なぜこういうことが起こるのか、ということについては、B戦前の日本（仙台）に教授として数年（一九三六〜四一年）滞在したことのあるレーヴィットの次のような鋭い日本人観察の言葉が、そのまま的中していると思うのです。《大概の日本人の西洋に対する関係において聞き逃されないイ言外の響きは、ヨーロッパに対する拒絶である》。日本人は、《あらゆる領域で今やふたたび己れ自身になろうと欲する》。それは《今日の日本人の国粹主義的な願望》の現れなのであり、《日本の自己愛》の現れなのである、と。またこゝもレーヴィットは言っています。ギリシア人は、《自分の中から自由に歩みでること》ができた国民であって、まさにこのことによつてウ《その根が異国のものであった一つの世界を己れの故郷》とすることができた、と。

ところで、日本人の物質主義的・現実主義的傾向によって西洋近代の物質文明と進歩信仰の一面的・情熱的摂取がなされたのに対して、西洋の精神文化の受容となると国粹主義的アレルギーの反応が起こる、という点を考えると、それだけに一層驚かされること、また感動深くあることは、エ明治時代の日本人の一部の人たちが初めて体験する西洋近代の精神文化の流入に直面した時、新鮮に驚き、自己を空しくして学びとろうと努力したことがあるという事実です。そしてそのことの成果として、精神文化の各方面においては、近代の自然科学的・自然的発見とは異なるいま一つの自然の発見、自然における美の世界の発見、すなわち自然風景の発見に、導かれたということです。

C これは、明治の初期にすぐに発生する国粹主義的・日本主義的・反動の層の厚い流れの中で、その流れに抗しながら生じたのでした。ですからそのことは文化史的、思想史的に極めて意義深き出来事だったと言えるでしょう。（内田芳明氏「風景の発見」）

（注）レーヴィット（一八九七～一九七三）——ドイツの哲学者。十九世紀以降のドイツ思想を研究。ナチスに追われて来日。

決戦現代文第2講 要約

西洋近代の精神文化を受容する過程で、日本にも、の発見とが生起した。つまりの覚醒、への心的覚醒が生じた。しかし、西洋近代のにおいては近代化を達成したが、については、スレチガイまたは拒否ばかりが繰り返された。それは、レーヴィットという言葉を借りれば、言外の響きすなわち※である。つまり、の反応である。それだけに、その流れに抗し、自己を空しくして学びとろうとした努力の成果としての自然風景の発見は、意義深いものとなるのである。

7

語群

精神文化・自然の美・自由な個人・風景感情の覚醒

国粹主義的アレルギー・物質文明・風景としての自然

(注) ※は自分で考えて入れること。